

第100号  
昭和34年10月

人口 265,201人  
世帯 56,051世帯  
※S34.8.31現在



100号の巻頭では、終戦後の復興が進み、市内で道路の新設・改良とともに橋の工事が年々進んでいる様子が伝えられています。昭和34年度には橋の新設、改良などが市内の31カ所で行われ、予算額も900万円を超え、産業開発や宅地開発に役立つことなどが書かれています。

裏面で目を引くのは、「近代化を誇る市立図書館(旧館)の完成」の記事です。「鉄筋コンクリート三階建、内、外部ともに近代的な建物です」と紹介され、建築中の写真や館内の見取り図が大きく取り上げられます。全国でもまれな設備であった「研究個室」の紹介とともに、それまでは稲荷町にあった「アメリカ文化センター」がこの図書館と合併することなどが載せられています。

「気づかない病気 結核」では、医学は進歩しているのに結核だけは一向に減る気配がなく、毎年結核治療に2,100万円以上の費用が市の予算から支出されていることなどが伝えられています。

34年  
の佐世保



11月21日、市立図書館(旧館)の開館

- 市長：山中辰四郎(やまなか・たつしろう)
- 3月12日 図書館用地にと返還を申し入れていた名切グラウンドの一部が返還される
  - 7月 1日 佐世保市水道部(現水道局)庁舎落成
  - 9月18日 台風14号上陸。住宅全壊34戸
- ※市中心部に映画館18館。年間延べ576万人が映画を楽しむ(平成21年2月現在、2館9スクリーン)。

創刊号  
昭和26年4月

人口 202,466人  
世帯 42,975世帯  
※S26.2.28現在



創刊当時の「させば市政だより」はタブロイド版(1面が現在の広報させばの約2倍の大きさ)4ページで、物資不足の影響もあり、町内の班単位で回覧されていました。

創刊号の巻頭では、当時の中田正輔市長が「この市政だよりを立派に育て上げ皆様への忠実な使い役として、又皆様の声の代理者として、充実させていくようご指導とご協力をお願いします」と述べています。

3ページ一面を使った特集「狂犬病の話」では、当時流行していた狂犬病の怖さなどを解説。飼い主の社会的な責任として、犬の登録と予防注射を徹底することなどが呼び掛けられています。

「躍進する市営バス」では、正月(1月)の輸送人員が110万人を数え、市民の足として市バスが愛用されている様子が伝えられています。

「市税のお知らせ」では、現在廃止されている「普通自転車税200円」「特殊自転車税(輪タク)500円」などの文字が並んでいます。

26年  
の佐世保



開設2周年を迎えにぎわう佐世保競輪の投票券発売所

- 市長：中田正輔(なかた・まさすけ)
- 1月 佐世保市の人口20万人を突破(明治19年は4,111人)
  - 1月28日 第1回小柳賞マラソン大会開催
  - 4月 1日 県立佐世保商科短大(現県立大学)創立
- ※朝鮮戦争勃発により、佐世保港は国連軍の前進基地へ。多数の国連軍兵士が続々と佐世保へ到着。

昭和三十六年四月一日に「させば市政だより」として発行を開始して以来五十八年間、市民の皆さんと市政をつなぐ懸け橋として、その役割を果たしてきた「広報させば」が、この三月号で七百号となりました。

本市が軍港都市から平和産業都市へと転換していく中で、市民の皆さんに市政を身近なものとして考え、理解してもらうために発行された広報紙ですが、年代を追って紙面を見ていくと、その時々佐世保の様子が克明に記されています。

今回は「広報させば七百号」の発行を記念して、広報させばにより親しんでいただくため、これまでの広報紙の変遷をたどりながら、佐世保の歴史の一部を振り返ってみたいと思います。

